



「ことばの力」を考える…①

「ひとつのことば」

北原白秋 作

ひとつのことばで けんかして
ひとつのことばで なかなか
ひとつのことばで 頭が下がり
ひとつのことばで 心が痛む
ひとつのことばで 楽しく笑い
ひとつのことばで 泣かされる
ひとつのことばは それぞれに
ひとつの心を 持っている
きれいなことばは きれいな心
やさしいことばは やさしい心
ひとつのことばを 大切に
ひとつのことばを 美しく

子どもたちの生活場面で、トラブルの原因になっている一つに、言葉遣いがあります。何気ない一言が相手を傷つけたり、けんかになったりすることがあります。

それとは反対に、友だちが困っているときにかける優しい言葉や、友だちの喜びを共に分かち合う言葉を聞くと、ほっこり温かい気持ちになることがあります。

左の詩は、「校長室暗唱チャレンジ」の中学年の課題、北原白秋の「ひとつのことば」です。言葉が持つ力を改めて考えさせられますね。私たち大人がよいお手本になりたいものです。

ご家庭でも、お子さんと一緒にこの詩を読んだり、言葉遣いについてお子さんと話し合ったりしていただければ幸いです。

アイデアいっぱい、ドリーム&チャレンジ! ワークショップ

6年生の子どもたちと教職員が同じテーブルに着き、磐梯一小的の新しい校風づくりについて話し合うワークショップを2日(木)に行いました。今回のテーマは、「気持ちの伝わるあいさつを学校全体、そして地域に広げるためにどんなことをしたらよいか」でした。7つの班に分かれて話し合いましたが、たくさんの良いアイデアが生まれました。また、ワークショップを通じて、6年生と教職員の交流を図ることができ、とても有意義な機会となりました。



あいさつを広げる プロジェクトチーム始動!!

ワークショップの翌日、6年生の有志で結成した各プロジェクトチームが、あいさつを広げる取組の企画書を作成し、校長室で提案してくれました。子どもたちが自ら動き出してくれたこと、本当にうれしく思いました。子どもたちの企画を、できる限り実現させてあげたいと思います!



校長室で企画書をもとに説明する6年生。豊かな発想に感心しました!